とある女神の上条当麻ーショートカオスストーリー

魔界魔

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
とある女神の上条当麻ーショートカオスストーリー

【Ｎコード】
Ｎ０１８４ＢＡ

【作者名】
魔界魔

【あらすじ】
この小説はとある女神の上条当麻のショートストーリーです、本編がシリアスほとんどになってしまったんで手を撃とうとしたらこうなりました。この小説ではギャグオンリーで行きたいと思います、後短いです、気が向いたら見てください。

温厚な人間は怒ると怖い（前書き）

ショートストーリーですマジでギャグオンリーで行きたいと思います。

温厚な人間は怒ると怖い

ここはネプギアの家、誰が何と言おうとネプギアの家。
そして現在ここにいるのはネプギア・ユニ・ロム・ラムが何やら話している。

ユニ「…前から思ってた事があるんだけどさ、ネプギア」

ネプギア「……いきなりどうしたのユニちゃん？」

ロム「…唐突すぎるよ」

ラム「それよりも思っている事って何よ？」

このままだと話が３６０℃の方向でずれてしまう、ここで話を戻すラム。

ユニ「当麻って摩訶不思議人間じゃない？」

ネプギア「…えっ…どこが？」

当麻のおかしい所と言えば重度な不幸症である事か…

ロム「……右手の力の事？」

ラム「違うよ！不幸症な事だよ！」

ラムの今の発言を上条が聞いたらおそらく1時間は部屋に閉じこもって部屋から出てこないかもしれない…

ユニ「すべてよ！普通の人間が右手にあんな変な力持ってたり、果ては女神化習得したりしないって！」

ネプギア「でも当麻さんの世界ではあの力も珍しくないのかも……」

ラム「それじゃ当麻がいた世界は不可思議人間だらけって事ね！」

とりあえずロムは今すぐ学園都市のすべての人間に謝れ。

イマジンハート「誰が？不可思議人間だって？」

全員「はっ！！」

女神候補生組が慌てて声を上げて何故か変身している上条当麻の方を見る。

ネプギア「あっ、当麻さんおかえりなさい、それよりも何で変身してるんですか？」

イマジンハート「タイムセールでいつも通り格闘繰り広げていたら強盗が入って来て品全部強奪されてついカッとなって……」

ユニ「そんな理由なんだ……」

イマジンハート「さてと、早くご飯の準備しないと…」

イマジンハートは台所に姿を消す。
いい加減戻れよ。
ラム「…まさか当麻にぼこぼこにされたのってこいつらじゃない？」
テレビを見るとボロボロの強盗グループが４０人くらい山になっている。
よいこは真似をしないようにね。
ユニ「…普段温厚な人間は怒ると怖い物ね」
上条当麻は称号『キレると怖い』を手に入れた。

温厚な人間は怒ると怖い（後書き）

…温厚な人は怒ると怖いですよ、……多分

選択肢という物は選択を間違えると９９％の確立でＢＡＤＥＮＤが確定されるの

；今回はネプギアと上条がギャルゲーをプレイ……だが…

選択肢という物は選択を間違えると９９％の確立でＢＡＤＥＮＤが確定されるの

現在ネプギアはギャルゲーをプレイ中である。
ネプギアはＺ指定ゲーム以外ならプレイ射程範囲である。

ネプギア「と……いう訳で当麻さんお願いします」

当麻「……なんでここで俺なんだよ…」

当麻はネプギアにギャルゲーの進行を頼まれた。
理由はこの小説では硬い事気にしたら負けだからそういう事にしておこう。

当麻「…とりあえず選択肢だな、確立は３分の１か…」

ネプギア「当麻さん気をつけてください、もし選択肢を間違えるとプレイヤーがｎｉｃｅ．ｂｏｔｅされる可能性があります。

当麻「あっちゃ駄目だろ、そんな危ない可能性！！」

とりあえずゲームに戻る上条当麻、最初の選択肢は……

今からどこかにでかける？

・俺、用事があるから
・一緒にでかけるか。

・とりあえず死んでくれ

当麻「…一番下の選択肢はおかしないか、このゲームの主人公は一体どうなってるんだ？」

ネプギア「説明書によると、過去に7回殺人して捕まっているようです」

当麻「なんでそんな危険な奴は主人公なの！？ヒロイン殺戮エンドしか見えないんだけど！！」

とりあえず当麻は好感度があがりそうな真ん中の選択肢を選ぶ、すると……

ヒロイン「それじゃ一緒に行こう……上に」

ゲームオーバー

当麻「何このヒロイン！主人公惨殺したけど！！」

ネプギア「現実にいたら恐ろしいですね……」

現実にいたら危ない人間の領域を軽く超えている、つーかいてたまるか。

当麻「……気をとりなおしてさっきの所の選択肢をもう一回……」

当麻は今度は一番上の選択肢を選ぶ……すると……

ヒロイン「一緒に行かないのなら死ぬのはあなただけで十分だよね♪」

ゲームオーバー

当麻「なんでだよォォォォ！！！！」

ついに叫びだす上条当麻、キャラ崩壊寸前にまで来ている。

ネプギア「なんで一番危ない一番下が正解なんですか！？」

当麻「大丈夫かこのゲーム！？もう血みどろの結末しか見えないんだけど！」

…当麻はもう一度さっきの所に戻りまさかの一番下の選択肢を選ぶ、すると……

ヒロイン「分かったよ、死ねばいんでしょ」

ヒロインは翌日自ら命を絶った……クリア

当麻「クリアじゃ駄目だろ！ヒロイン可愛そうすぎるよ、救われないよ！」

ネプギア「そしてこの主人公は最低ですね」

当麻「殺されたも自行自得で片付けられる最低な主人公がここにいるぞ」

今度は次の選択肢に辿りついた上条当麻

次の選択肢は……

白状しなさい、君がヒロインを殺したんだろうｂｙ警察

・はい、僕がやりました

・いいえ、僕ではありません

・真犯人は他にいます。

当麻「何これ……」

ネプギア「いつの間にか警察に捕まっていますね……」

当麻「…とりあえずここは逃げた方が正解なのかも…」

当麻は真ん中の選択肢を選ぶ、すると……

主人公「はい、僕がやりました」

ゲームオーバー

当麻「選択肢ガン無視！？」

ネプギア「この主人公、諦めものすごく早いですね」

当麻「……今度は一番下選んでみよう」

今度は当麻は一番下の”真犯人は他にいる”を選ぶ。

主人公「ヒロインちゃんは自らの意思で自殺しました、僕は何にも悪くありません」

主人公は釈放された……クリア。

当麻「なに最低な嘘ついてんだァァァァァ！！！！」

ネプギア「もうこの主人公は本当に救いようが無いですね……」

当麻「もう神様でも救えないよこんな外道」

いい加減ツッコミ疲れた当麻だがゲームを続ける。

さて……これからどうしようか……

・殺人をする。
・自殺する。

当麻「……これ本当にギャルゲー…？」

ネプギア「…どっち選んでも主人公のお先真っ暗ですよねこの選択肢…」

当麻「もういい加減にこの最低男の歴史に終止符を打とうぜ」

当麻は一番下の自殺するを選択する。すると……

主人公は身投げするが奇跡的に無事だった…クリア

当麻「なんだよこの主人公！変な所で不死身だな」

ネプギア「当麻さんも十分普通の人間にしては不死身だと思いますけど……」

俺も思うｂｙ魔界魔

当麻「……もういい加減疲れたよ本当に…」

ネプギア「…ついに次で最後の選択肢みたいですよ」

俺は最高な男だな。これからは何をしようか…

・世界の半分をもらいにいく
・カカロットォォォォォォォ！！！！
・アイテムなんぞ使ってんじゃ…ねぇぇぇぇぇぇ！！！！
・俺は学園都市最強だぜェ

当麻「何だこの選択肢！もう意味がわかりません！」

ネプギア「……適当に一番上で行きましょう当麻さん、もしかしたら竜王に会えるかもしれませんよ」

当麻「…絶対この選択肢に正解なんて無いとおもうけどな…」

当麻は一番上の選択肢を選ぶ、すると……

主人公「この選択肢の正解も分からないのかい？プレイヤーは無能すぎてこまるよ…」

ブチッ！！！！！！！！

何かか切れる音がこのゲームを見ていた二人からした……そして…

ガンッガンッガンッバキッ！！！！！

……謎の破壊音がこのプラネテューヌに響いたそうだ。

当麻は称号『怒れるゲーマー』

ネプギアは称号『ギャルゲーブレイカー』を得た

余談だがネプギアと上条はもう二度とギャルゲーをしない事を誓ったらしい。

選択肢という物は選択を間違えると９９％の確立でＢＡＤＥＮＤが確定されるの

ゲームのやりすぎは目に毒ですよ……

現実は理不尽（前書き）

魔界魔「あけましておめでとうございます！！」

上条「これからも応援よろしくお願いします！」

魔界魔「それではスタート！」

現実は理不尽

御坂美琴とエリーゼ・タルス、仲がいい貧乳コンビである。

御坂「……はぁー」

御坂が溜め息を吐いている、別にめずらしくないけど。
そしてそこにエリーゼがやってくる。

エリーゼ「……何してるんですか？そんな所で溜め息なんか吐いて」

御坂「……現実って残酷で非情よね」

エリーゼ「……はい？」

御坂「だから現実は酷いって言ってるの！」

エリーゼ「……いきなりそんな事を言われても……どうゆう事ですか？」

すると御坂は自分の悲しい胸に手を当てて言う、御坂の胸は中学生とは言えかなり小さい。

エリーゼ「……もしかして胸の事ですか？」

御坂「胸だけじゃ無い！全部よ！」

エリーゼ「……もしかしてこの世界には女性がいてもスタイルがいい人しかいないから気にしているんですか？」

御坂「そうよ！だって私はこの世界にいる女性メインキャラ全員に体のスタイルで負けてんじゃない！」

エリーゼ「……でもネプテューヌちゃんには勝ってるんじゃ…」

御坂「あの子だけ変身すると体も頭もほとんど別人じゃないの！！」

エリーゼ「それじゃ…ブランさんは…」

御坂「ブランさんは私より体小さいから勝ったってうれしくないわよ！」

エリーゼ「……現実は残酷ですね…」

相手探しにいい加減疲れたエリーゼ、気持ちは分かる、もしこれが話しを聞いているのは男だったらぶん殴っているかもしれない。

エリーゼ「…でも胸の大きさなら日本一さんに勝ってるんじゃないですか？」

御坂「あの子に胸の大きさで勝っても何も変わらないわよ！どんぐりの背比べレベルじゃない！！」

もしここに日本一がいたらジャスティスキックを決めていたかもしれない。

エリーゼ「……あの御坂さん」

御坂「何？」

エリーゼ「……何で女神様ってあんなに体のスタイルいいんですか？理不尽じゃないですか！」

御坂「…女の神だからじゃないの？」

御坂は適当に返答する、だが次の一言で御坂は暴走する。

エリーゼ「……でも当麻さんは男性ですよ」

御坂「……あいつの事考えたらムカムカしてきた！エリーもそう思わない！！」

エリーゼ「えっ……何でですか？」

御坂「エリーのＢ７９でしょあいつの女神姿にＢ８８よ！あいつはたしか１５歳よ！エリーは悔しいとか思わないの！？」

エリーゼ「……悔しいと思ってどうする気ですか？戦いしにでも行くんですか？」

御坂「勿論！」

エリーゼ「がんばってください」

エリーゼは姿を消した、これ以上相手してられるか、こう思いながら御坂を見送った。

御坂「待ってなさいよ！あの馬鹿！」

余談だが御坂はあの後に当麻に返り討ちにあった。

現実は理不尽（後書き）

貧乳：御坂美琴、アイエフ、ブラン、ホワイトハート、アイエフ、エリーゼ、イストワール、ネプテューヌ、ネプギア、ロム、ラム、ホワイトシスター、ブラックシスター、ブラックシスター

普乳：イルヴィル、パープルシスター、ユニ、ノワール、ブラックハート

巨乳：パープルハート、ベール、グリーンハート、イマジンハート、ミラ、レイア、コンパ

無乳：日本一

；……この小説の巨乳と貧乳の差は激しい…

不幸は人によっては幸運の一つ（前書き）

今回は普段のと比べて微妙に長いです。

不幸は人によっては幸運の一つ

ここはプラネテューヌの町、そして上条は買い物の帰りでこの町を歩いていた。

上条「さて……早く帰らないと、お腹空いたし……ん？」

上条が歩いていると何やら自販機の近くで肩を落としている子供がいる。

上条は困った人を見捨てられない病の末期患者なのでこの人を見捨てられない。

上条にとってこの性格は長所でもあるし短所でもあるのではないか。

？？？「どうしよう……困ったな……」

上条「……どうしたんだ？そこの君？」

？？？「うわ！？」

子供が突然驚いて自販機に激突。

痛そうだがそこは無視の方向で

？？？「いきなり声かけないでくれよ、びっくりしたな！」

上条「悪い悪い、それで何しているんだよ、探し物か？」

？？？「実は……知り合いに上げる誕生日会のプレゼントを探し

てたんだよ」

上条「それでそのペンダントが自販機の下にあるのか？」

？？？「いや違う、これは喉がかわいたから下にお金落ちてないからと……」

上条「何してるんだよお前！読者は真似したら駄目だからね！」

読者は自販機の下に落ちているお金はとらないようにね（自分の金ならいいと思う）もしそれが他人の金なら一応は犯罪に入るからなby魔界魔

？？？「それで何か用？邪魔しにきたならあっちにいって」

上条「いや…もしあれなら探すの手伝ってやるよ」

？？？「えっ……いいのお兄ちゃん」

上条「いいっていいって、それに俺は困っている人は何故だか見捨てられないからな」

？？？「……ありがとうお兄ちゃん」

そんなこんなでペンダント探しが始まった。

上条「で、ペンダントは何処で無くしたとか覚えてないか？」

少年「……覚えているんだけど、怖くて取りにいけなくて」

上条「それで……何処なんだ…」

すると少年が爆弾発言をする。

少年「……不良のアジト」

上条「何でそんな所にあるの！？」

少年「……実は……」

少年が事情を説明する、事情と言うのは誕生日が終わると他の大陸に引っ越すので早くペンダントを渡しに行こうとしたら偶然運悪く不良グループと鉢合わせになりペンダントを奪われてしまったという。

上条「……教えろ」

少年「えっ……」

上条「不良の居場所を教えてくれ」

少年から話を聞いた当麻は少年に待ってろといいきかせ一人買い物袋を持って走ってって目的地は言うまでも無くあそこだ。

（プラネテューヌ・裏道）

ここは不良のアジトである、そしてここには8人の不良がたむろしている。

不良「おい、金が無くなったぜ、さっき取ったこのペンダントを使

って遊ぼうぜ」

不良がギャハハなどという汚い笑いをしているとそこにツンツン頭の少年が不良の目に映る。

不良「…オイ、何かあいつ袋持ってッぞ、何か食料とか入ってんじゃね？」

不良2「オイそこのツンツン頭、そこの買い物袋を「テメェらか？」

不良がツンツン頭に声を遮られて怪訝な顔をする。

上条「テメェらかって聞いてんだよ、ペンダント奪ったのは」

不良「ペンダント？ああ、これの事か？」

不良2「ツンツン頭はこんな物の為にここに死にに来たってか？」

上条「……そのペンダントを返しやがれ」

不良「あん？」

上条「そのペンダントを返せって言ったんだ」

不良「……殺れ」

不良が向かって行くすると……

どがあああああ！！

不良「ひっ…何だ…」

向かっていった不良の一人がすごい勢いで殴られて戦闘不能になる。
そして不良を殴った張本人は静かにこういった。

上条「ペンダントを返すつもりが無いなら俺にも考えがある。」

不良は愚かにも触れてしまったのだ、触れてはいけない物の逆鱗に
……

数分後……

少年「……大丈夫かな」

少年は待っていた、あのツンツン頭の少年を。

少年「…僕が余計な事を話したばっかりに……えっ！？」

少年が見るとツンツン頭の少年が遠くから目に映る。
学生服は少しボロボロで買い物袋を持っていく、置いていけよ買い物袋くらい
そして上条は少年にある物を渡す。

上条「ほら、ペンダント取り返してきたぞ」

少年「…本当に取り返してくれたんだ…ありがとう…」

上条「俺の事はいいから、早く届けてやれよ」

少年「……本当にありがとう！お兄ちゃん！」

すると少年はペンダントを持って去っていった，
そしてそれを静かに見送る上条当麻。

上条「……がんばれよ」

上条はそういって帰ろうとするが、ここである事に気付く、買い物袋の中の……

上条「ああー！！！特売で買った貴重な卵が全滅している！やっぱり俺って……」

そして上条はお得意のあの台詞を……

上条「不幸だあああああああああああああああ！！！！！！」

不幸は人によっては幸運の一つ（後書き）

最後はバッチリ決められない上条……

日記ネタは便利（前書き）

今回は良くある日記ネタです、見ればこの日記が誰が書いたか簡単に分かると思います。

日記ネタは便利

○月×日

……なんでこうなったんだ。
前までは上の命令で嫌々ながら女神候補生共の妨害を仕掛けてきたが変な高校生にそげふされて犯罪組織からもマジック・ザ・ハード様からも見捨てられた。
すべてはあのツンツン頭の少年のせいだ…今度見つけたらギッタンギッタンに泣かしてやる。
…けどやっぱり返り討ちに合いそうだからやめようかな……

○月△日

犯罪組織が壊滅した。
何でこうなったのか全てがわからない、そもそもこの小説はおかしいという次元を通り越して異常だ。
ジャッジ・ザ・ハード様は墓守の仕事放り投げてそげふされた、マジック・ザ・ハード様は涙が出るくらいの弱体化、ブレイブ・ザ・ハード様は裏切り、トリック・ザ・ハード様は無駄にかっこよくな

った、そしてワレチューは存在否定。
とにかく全てが分からない。
そして挙句の果てにはあいつは女神になっている。何故だ……

○月○日

私は決心した。
私に手で犯罪組織を再建させてみせる。
この手で犯罪組織を再建させてあの女神とあの少年を血祭りにあげてやる。
そして私は適当に大陸を渡り歩いていたらあらゆる生命を物の中に閉じこめられる謎のアイテムをもらった、もらった人物はギャラクシーとかいう変な奴だったがこれは好都合だ、これを使って……

○月◇日

久しぶりに本編で出番があったがやられ役だった。
そしてまたあのツンツンとおまけによって計画を完全に壊された。
何でこうやる事すべてが上手くいかないのだろう……この原因は某名探偵であるバーローでも分からないだろう。
だが私はここでは終わらない、絶対にあのツンツンに復讐してやる。

……また原作で出番欲しいな…。

△月△日

私の現在の生活はとても貧しい……というかホームレス。
とりあえず金はカツ上げして稼ぐ、そしてホームレス同僚からもリンダと呼んでくれる物はいない、私はどこまでいっても下っ端だった。
この小説で「もしかしたら優遇されてるんじゃね！」と自身を過信していた時期が恥ずかしい、この小説では何やら武器が鉄パイプから銃という大進化を遂げていたが進化したのはこれだけで他には何も進化しなかった、そもそもこの武器でただの高校生に勝てなかった私も私だった。

×月×日

ホームレス生活１０日目
今の私なら黄〇伝説という番組でやっていた無人島生活も余裕でこなせそうな気がする、というか向こうの方が天国だと今の私は思える。
もう何もかもどうでもいい……頼むから金を恵んでくれ、誰でもい

いから。
と思えるようになった自分自身が物凄く怖くなってきた。
とりあえず今日もカツ上げをして金を集める、しかし今回の獲物は標的が強すぎた。
片方のジーパンをギリギリまでに切っている美人をカツ上げしようとしたら片手で掴まれてすごい投げ飛ばされた、走馬灯が……

×月△日

遂にホームレスを卒業！…なんて事は無かった。
私は決心する、ツンツン頭の復讐を死ぬ前に一度だけしたい。
そして私は彼を偶然見つけてまずは軽い嫌がらせにあいつが買おうとした店の品などをすべて奪って逃走した、…良い子のみんなは真似したら駄目だよ、悪い子もだよ！！
そしてここから地獄が始まった。
私に超高速で向かってくる人物を確認するとそいつが誰なのかは最初はわからなかったがすぐに分かった、だが時すでに遅し…その人物に「大次元断」とかいう中二臭い技なのに威力が半端ない技を決められて今回も敗北した。
……もう何もかも嫌になってくる、というかもう嫌だ。
そしてこの日記は捨てよう、何か書いてて恥ずかしくなってきた……

魔界魔「……何だこの日記？」

偶然この日記を拾った魔界魔はこれを読んだ後、焼却炉に投げ捨てた。

日記ネタは便利（後書き）

このショートストーリの第一話で女神当麻にボコボコにされたのはリンダです。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0184ba/

とある女神の上条当麻ーショートカオスストーリー

2012年1月14日14時52分発行